

JRIS

鉄道車両ーハロゲンフリージャンパ線

JRIS J 1061 : 2008

(JARI)

平成 20 年 8 月 8 日 制定

日本鉄道車輛工業会規格審査会 審議

(社団法人 日本鉄道車輛工業会 発行)

日本鉄道車輛工業会規格審査会 構成表

| | 氏名 | 所属 |
|-------|---------|----------------|
| (委員長) | 田 中 眞 一 | 財団法人 研友社 |
| (委員) | 河 合 篤 | 国土交通省 鉄道局 |
| | 宮 本 昌 幸 | 明星大学 |
| | 近 藤 圭一郎 | 千葉大学 大学院 |
| | 古 関 隆 章 | 東京大学 大学院 |
| | 岡 本 勲 | 財団法人 鉄道総合技術研究所 |
| | 新 井 静 男 | 東日本旅客鉄道株式会社 |
| | 加 藤 秀 一 | 東京地下鉄株式会社 |
| | 堀 江 富士雄 | 近畿車輛株式会社 |
| | 大 西 利 之 | 株式会社 東芝 |
| | 岡 方 義 則 | 住友金属工業株式会社 |
| | 溝 口 正 仁 | 社団法人 日本鉄道車輛工業会 |
| (顧問) | 井 口 雅 一 | 東京大学 名誉教授 |
| (事務局) | 下 村 孝 | 社団法人 日本鉄道車輛工業会 |

日本鉄道車輛工業会 基準整備委員会 構成表

| | 氏名 | 所属 |
|---------|---------|-----------------|
| (委員長) | 手 塚 和 彦 | 株式会社テス |
| (委員) | 佐 藤 公 一 | 川崎重工業株式会社 |
| | 山 口 隆 | 日本車輛製造株式会社 |
| | 河 口 清 | 近畿車輛株式会社 |
| | 川 端 俊 夫 | 東急車輛製造株式会社 |
| | 尾 藤 千 秋 | 新潟トランス株式会社 |
| | 谷 督 次 | 三菱重工業株式会社 |
| | 和 嶋 武 典 | 株式会社日立製作所 |
| | 石 橋 尚 之 | 株式会社東芝 |
| | 塩 見 省 吾 | 三菱電機株式会社 |
| | 尾 崎 覚 | 富士電機システムズ株式会社 |
| | 潤 賀 健 一 | 東洋電機製造株式会社 |
| | 岡 方 義 則 | 住友金属工業株式会社 |
| | 藤 原 達 雄 | ナプテスコ株式会社 |
| | 新 井 衛 | 日本信号株式会社 |
| | 島 添 敏 之 | 株式会社京三製作所 |
| (顧問) | 田 中 眞 一 | 財団法人 研友社 |
| (鉄車工委員) | 佐 藤 芳 彦 | 社団法人 海外鉄道技術協力協会 |
| | 溝 口 正 仁 | 社団法人 日本鉄道車輛工業会 |
| | 下 村 孝 | 社団法人 日本鉄道車輛工業会 |

制 定 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会 会長

掲 示 : 鉄道車両工業 ; 工業会のホームページ : URL ; <http://www.tetsushako.or.jp>

発 行 者 : 社団法人 日本鉄道車輛工業会

(〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-2 NTT-TEL ; 03-3257-1901 NTT-FAX ; 03-3257-3200)

審 査 : 日本鉄道車輛工業会規格審査会

作成委員会 : 当工業会基準整備委員会

この規格についての意見又は質問は、当工業会にお願いします。

なお、この規格は、原則として5年を経過する日までに確認、改正又は廃止されます。

目 次

| | ページ |
|-------------------|-----|
| 1 適用範囲 | 1 |
| 2 引用規格 | 1 |
| 3 用語及び定義 | 1 |
| 4 種類及び記号 | 1 |
| 5 特性 | 1 |
| 6 材料, 構造及び加工方法 | 2 |
| 6.1 導体 | 2 |
| 6.2 セパレータ | 2 |
| 6.3 絶縁体 | 2 |
| 6.4 線心の識別 | 2 |
| 6.5 線心より合わせ | 2 |
| 6.6 シース | 3 |
| 7 試験方法 | 5 |
| 7.1 外観 | 5 |
| 7.2 構造 | 5 |
| 7.3 導体抵抗 | 5 |
| 7.4 耐電圧 | 5 |
| 7.5 絶縁抵抗 | 5 |
| 7.6 絶縁体及びシースの引張り | 5 |
| 7.7 加熱 | 5 |
| 7.8 耐油 | 6 |
| 7.9 塩化水素ガス発生量 | 6 |
| 7.10 発煙性 | 6 |
| 7.11 耐燃焼性 | 6 |
| 7.12 耐久性 | 6 |
| 8 試験 | 6 |
| 8.1 形式試験 | 6 |
| 8.2 受渡試験 | 6 |
| 8.3 調査試験 | 6 |
| 9 ジャンパ線の曲げ半径 | 7 |
| 10 ジャンパ線の寿命及び保管期限 | 7 |
| 11 一般的な注意事項 | 7 |
| 12 製品の呼び方 | 7 |
| 13 表示及び包装 | 7 |
| 13.1 ジャンパ線の表示 | 7 |
| 13.2 包装の表示 | 7 |
| 13.3 包装 | 8 |

まえがき

この規格は、電線規格の体系整備のため、ハロゲンフリージャンパ線規格を、“日本鉄道車輛工業会規格（以下、鉄車工規格という。）の制定に関する規程”の規定に則り“鉄車工規格審査会”の審議を経て、日本鉄道車輛工業会会長が制定したものである。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。会長及び鉄車工規格審査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JRIS “Jシリーズ” 制定の背景

日本国有鉄道が制定した鉄道に関わる規格（**JRS**）は、1987（昭和62）年の国鉄の分割民営化時点で、公的な効力が終了し、以後、この規格を維持管理する体制がなくなった。しかし、鉄道車両の分野においては、この**JRS**の規定内容を該当する仕様書又は図面中に再掲する方法で活用する例が数多くある。

そこで、鉄道車両の分野で、今後も継続して利用する可能性の高い**JRS**の内容は、現在の技術レベルでの見直しを行った後に、鉄車工規格として受け入れ制定・登録することとした。

この規格は、該当する**JRS**はないが、電線規格の体系整備のため、“Jシリーズ”として区分し、グループ別に区切って番号を割り当てる方法を採用している。したがって、従来の**JRS**番号との関連はない。

JRISは、関係する技術分野に応じて五つに区分した体系で構成している。

この規格の“Jシリーズ”のほかに、“D”、“E”、“R”及び“W”シリーズがある。

鉄道車両—ハロゲンフリースジャンパ線

Rolling stock—Halogen-free jumper cables

1 適用範囲

この規格は、ハロゲンフリー材料を絶縁体及びシースに適用し、主として 600 V 以下又は 1 500 V 以下の車両用ジャンパ連結器に用いる、ハロゲンフリースジャンパ線（以下、“ジャンパ線”という。）について規定する。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格のうちで、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版だけがこの規格の規定を構成するものであって、その後の改正版（追補を含む。）には適用しない。西暦年の付記のない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS C 3005:2000 ゴム・プラスチック絶縁電線試験方法

JIS C 3152 すずめっき軟鋼線

JIS C 60695 環境試験方法—電気・電子—耐火性試験—煙による光の不透過度の測定—小規模静的試験方法—材料

JIS J 1000:2005 鉄道車両—電線及びケーブル—一般規則

JCS 0400 電線用語

JCS 7397 電線・ケーブルの燃焼性に関する特性試験方法

注 JCS は、社団法人日本電線工業会の規格である。

規格概要につき以下は省略する。